

宮之城高校・宮之城農業高校の再編

◆県教育委員会が高校再編整備実施計画を決定

県教育委員会は、2月3日、「宮之城高校・宮之城農業高校の2校を再編整備し、普通科・農業科・福祉科を併置した総合選択制の新高校を、平成17年4月1日、宮之城農業高校の場所に開校する」、「宮之城高校・宮之城農業高校については、平成17年度から生徒募集を停止し、平成19年3月31日をもって廃止する」などを盛り込んだ平成16年度実施計画を決定しました。

これを受けて、2月19日、宮之城町高校再編対策会議（町行政、議会、PTA、同窓会などで構成）と宮之城高校・宮之城農業高校再編整備対策協議会（入来町、宮之城町、鶴田町、薩摩町、祁答院町の行政、議会、PTA、同窓会などで構成）は、県知事、県議会議長、県教育長に対して「要望書」提出しました。

●主な要望内容は、次のとおりです。

- ・「地域住民等に対して十分な説明を行い、理解を得た上で実施すること」
- ・「新高校における総合選択制は、時間をかけて充分検討し、保護者や関係者の理解を得てから導入すること」
- ・「充分協議し、理解を得た上で、生徒にとって最適な移行措置を講じること」
- ・「普通科については、今後も3学級を堅持すること」
- ・「今後の学校運営にあたっては、関係者による組織を設置し、地域と一緒にあった学校運営を行うこと」
- ・「次年度以降における実施についても、早急に地元と協議を開始し、地元が理解し納得した上で実施すること」



宮之城高校



宮之城農業高校

◆宮之城高校・宮之城農業高校再編整備に係る説明会

2月22日、宮之城高校・宮之城農業高校再編整備対策協議会の主催による説明会が町文化センターで開催されました。

祁答院地区5ヵ町のPTA関係者ら約150人が出席し、県教育委員会による高校再編整備計画の概要説明や宮之城高校・宮之城農業高校の校長による総合選択制高校の視察研修報告があった後、活発な質疑応答が行われました。

質疑応答では、「総合選択制、ミックスホームルームの導入は本当にメリットがあるのか」、「実施計画の発表から決定までが拙速すぎる。どうして急ぐのか」、「説明の整合性がない。計画は、白紙撤回すべきである」、「現在の高校1年生や今回の受験生のことを思えば、せめてあと1年遅らせてほしい」、「普通科は、2クラスではなく3クラスで実施できないか」などの質問が相次ぎましたが、県教育委員会側としては、「地域からのご意見や要望は強く受け止めるが、基本計画・実施計画は、一定の手続きを経て、決定したものであり、魅力ある高校づくりを進めるため、今後も保護者や地域の協力をお願いしたい」との回答がありました。



活発な質疑応答が行われました